

# 国際協力研修「名古屋大学ヤング・リーダーズ・プログラム (Young Leaders Program (YLP))」(実施期間:2016年6月20日)

## 1. 本研修の概要

本プログラムは、アジア・東ヨーロッパ諸国等の国家レベルの指導者として活躍が期待される行政官を、我が国の大学院等に招へいし1年程度の短期間で学位を授与する、文部科学省による国費外国人留学生制度のうちの新たなプログラム（平成12年設立）であり、名古屋大学では平成15年より設立され、平成26年9月に第11期生が修了した。アジア諸国の将来のナショナル・リーダーを養成し、又、日本への理解を深めるカリキュラムを通して、各国指導者層との間に強固な人脈を形成し、諸国間の友好関係の構築を目指すことを目的としている。国内の関係機関訪問研修の一環として、科学院での研修が行われている。

## 2. 実施方法

当研修は2016年度で3回目を迎え、2016年6月20日（月）13時から16時半まで約3時間半で科学院紹介、母子保健講義、医療安全講義及び演習、館内案内（講義室、ホール、図書館、宿泊棟、研究棟など）を行うという中身の濃いものとなった。

研修の時間構成は、今日の公衆衛生における”National Institute of Public Health”の存在意義を紹介し、公衆衛生専門研究機関の必要性と自国の現状について情報交換するディスカッション形式の場と、保健医療の最新の知見や日本における実践を紹介するために母子保健や保健医療サービスの質などについての講義や演習をうまく組み合わせて行った内容となった。また、図書館における貴重書庫の見学、書籍のオンラインによる公開方法、水道研究施設見学も組み込んだ。

研修生からは多くの質問や発言が出され、大変活発な研修となった。



【講義風景 本院：4-8,9講義室】



【集合写真 本院：4-8,9講義室】

## 3. 対象国

本年度の対象国は、モンゴル、アフガニスタン、バングラデッシュ、カザフスタン（2名）、キルギス共和国、ラオス（2名）、マレーシア、ミャンマー、ウズベキスタン、（計9カ国）からの合計11名であった。研修参加者は、主に地方保健局、中央政府における公衆衛生を担う医系技官であった。



【施設見学 本院：図書館】



【施設見学 本院：浄水プラント】